＜親子コミュニケーション応援編＞

教材番号　　**ｺ—1 スマホ版**

**２**

対象(時間)：概ね２、３歳～６歳児の親　(40分程度)

 **「ちゃんとしてね！」で伝わってる？**

【ねらい】曖昧な表現では子供に伝わらないマンガを通して、子供の気持ちに共感した具体的な言葉かけや対応について考える。

　【参加者の準備物】　アイスブレイク用の用紙、ペン

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
|  時　間 | 展　　開 | 留　意　点 | PC・スライド |
| : | 〇入室 | ○名前の入力（ニックネーム可） | 画面共有オンスライド①スクリーンショットの確認（肖像権の確認） |
| ：(２分) | ○ファシリテーター（学習支援者）の自己紹介、主旨・ルール等説明を聞く。 | ○和やかな雰囲気づくりに配慮する。○「親子コミ」三つの特長(親等の悩みに対応、子供の気持ちを理解し自己を振り返る、具体的な子供との接し方についての情報提供)をファシリテーターが理解した上で、「子供の気持ちに共感した接し方、コミュニケーションの方法を、具体的に考えてみましょう」と参加者に説明する。 |
| :(５分) | **自己紹介**（５分）①自分の名前②子供の名前・年齢③趣味（マイブーム）等 | ○初対面の人でも、自由に意見を出せるようにするためのウォーミングアップとする。○和やかな雰囲気づくりに配慮する。〇③については、参加者の様子を見て変更してもよい。 | スライド②※チャットやリアクションボタン等も活用し、オンライン上でのコミュニケーションを楽しめるようにする。 |
| ：(１分) | **＜３つの約束＞**(１分)○「３つの約束」を確認する。 | ○発言の平等、人の発言を肯定、秘密の保守（パス有り） | スライド③ |
| ：(２分) | **＜マンガを読んで考えましょう＞**○４コマまんがを見る。 | ○前半では、曖昧な表現のために、親の思いが子供に十分に伝わっていなかったことを押さえる。○後半の４コマ目で親子共に笑顔であることを押さえ、考えさせる。※具体的な言葉かけや対応についてだけでなく、子供の気持ちや親の気持ちについても考えられるよう促す。 | スライド④⑤⑥⑦ |
| ：(20分) | **＜考えましょう、出し合いましょう＞**設問：まんがの場面のようなご自身の体験・エピソードはありますか。それはどんな場面でしたか。その時どんな言葉かけや対応をしましたか。○設問について話し合う。※食事、片付け、遊び、睡眠など好きなテーマについて、あるいはファシリテーターが指定したテーマについて意見交流する。○話し合ったことを紹介する。 | ○うまくいったこと、うまくいかなかったことなど、同じような経験をしたことがないか振り返り、その時の子供の気持ちも想像させる。○子供の問題を「性格」でなく、「行動」に焦点を当てて捉えることの大切さに触れる。※子供への接し方や、しつけについての悩みや疑問、ヒントの交流につなげても良い。 | スライド⑧ |
| ：(５分) | **＜ファシリテーターからの説明＞**○参考資料「親子のコミュニケーションサイクル」を見る。 | ○資料等を活用し、必要に応じて次の点を伝える。・「具体的に」してほしい行動を「動作」や「行動」を表す言葉で伝える。・子供と目線を合わせて話をする。・行動の過程をほめ、随時言葉かけをし、少しでもできたらほめる。※イライラサイクルを否定するのではなく、日頃の子供への接し方を見つめ直す機会とし、イライラな関わりが少なくできると良いことを伝える。 | スライド⑨⑩ |
| :(５分) | **＜学習を振り返りましょう＞**〇感想を交流する。 | ※グループで振り返りできる場合はグループで行う。 | スライド⑪※チャット機能を利用してもよい。 |
|  | **＜終了・アンケート＞** |  | スライド⑫ |